

A large, abstract graphic on the left side of the page, consisting of several overlapping, curved, semi-transparent shapes in shades of gray, creating a sense of depth and movement.

Sun Java Enterprise System 6 リリースノート

2009年4月

このドキュメントは、Java ES チームによって管理されています。

このリリースノートのドキュメントには、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) 6に関する重要な情報(特に、Java ES 6 Base のオフリング)が記載されています。インストール、アップグレードおよび操作全般についての理解を深めるために、Java ES の使用を開始する前にこのリリースノートをお読みください。このドキュメントは新しい問題が発生したときに、それらを説明するために必要に応じて更新されます。これらの更新については、「13 ページの「改訂履歴」」を参照してください。このドキュメントの最新バージョンは、docs.sun.com/coll/1286.4 の Java ES 6 ドキュメントコレクションにあります。

そのほかの Java ES 6 のオフリング (たとえば、各種の Java ES スイートなど) については、sun.com/software/javaenterprisesystem を参照してください。

このドキュメントで取り上げる主なトピックは、次のとおりです。

- 全般情報:
 - 2 ページの「Java ES 6 Base 製品」
 - 3 ページの「Java ES 6 の新機能」
 - 3 ページの「Java ES 6 ソフトウェアの入手」
 - 4 ページの「Java ES 6 のインストール、または Java ES 6 へのアップグレード」
 - 4 ページの「廃止、置換、削除された機能」
- プラットフォーム およびソフトウェアのサポート:
 - 4 ページの「プラットフォームのサポート」
 - 6 ページの「システムの仮想化のサポート」
 - 6 ページの「Web ブラウザのサポート」
 - 6 ページの「Java Platform Standard Edition (Java SE) のサポート」
- 6 ページの「既知の問題」
- 追加情報:
 - 11 ページの「再配布可能ファイル」
 - 12 ページの「Berkeley Database の使用に関する権利」
 - 12 ページの「障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能」
 - 12 ページの「Java ES 6 のドキュメント」
 - 12 ページの「マニュアル、サポート、およびトレーニング」
 - 12 ページの「Sun 製品資料の検索」
 - 13 ページの「第三者の Web サイト参照」
 - 13 ページの「このマニュアルに関するコメント」

このドキュメントは、製品利用のあらゆる側面に関する問題を網羅しているわけではないので、使用する Java ES 製品のリリースノートも参照されることをお勧めします。製品レベルのリリースノートの一覧については、「2 ページの「Java ES 6 Base 製品」」を参照してください。

Java ES 6 Base 製品

次の表は、Java ES 6 Base 製品の一覧、各製品のバージョン指定、各製品のリリースノートへのリンク、これらのリリースノートで使用されている各製品の略称を示したものです。ほかの Java ES 6 オフリングで提供されている製品については、sun.com/software/javaenterprisesystem を参照してください。

製品	バージョン	リリースノート	略称
NetBeans	6.5.1	NetBeans IDE 6.5 Release Note および NetBeans 6.5 Patches Info	NetBeans
Solaris Cluster	3.2 1/09	Solaris Cluster 3.2 1/09 Release Note	Solaris Cluster
Solaris Cluster Geographic Edition	3.2 1/09	Solaris Cluster Geographic Edition 3.2 1/09 Release Note	Solaris Cluster Geographic Edition

製品	バージョン	リリースノート	略称
Sun GlassFish Enterprise Server	v2.1	『 Sun GlassFish Enterprise Server 2.1 Release Notes 』	GlassFish Enterprise Server
Sun GlassFish Web Space Server	10.0	『 Sun GlassFish Web Space Server 10.0 Release Notes 』	GlassFish Web Space Server
Sun Java System Directory Server Enterprise Edition	6.3.1	『 Sun Java System Directory Server Enterprise Edition 6.3.1 Release Notes 』	Directory Server Enterprise Edition
Sun Java System Message Queue	4.3	『 Sun Java System Message Queue 4.3 Release Notes 』	Message Queue
Sun Java System Web Proxy Server	4.0.8	『 Sun Java System Web Proxy Server 4.0.8 Release Notes 』	Web Proxy Server
Sun Java System Web Server	7.0 Update 4	『 Sun Java System Web Server 7.0 Update 4 Release Notes 』	Web サーバー
Sun OpenSSO Enterprise	8.0	『 Sun OpenSSO Enterprise 8.0 Release Notes 』	OpenSSO Enterprise

従来の Java ES リリースの製品をよく理解されている場合は、次の点に注意してください。

- Solaris Cluster および Solaris Cluster Geographic Edition はそれぞれ、従来の Java ES リリースの Sun Cluster および Sun Cluster Geographic Edition と同じ製品です。
- Sun GlassFish Enterprise Server は事実上、Sun Java System Application Server Enterprise Edition と同じ製品です。Sun は Application Server 用のソースコードを [GlassFish オープンソースプロジェクト](#) に寄与しました。このプロジェクトからのコードが、Sun GlassFish Enterprise Server の作成時に使用されます。
- Sun GlassFish Web Space Server は、Sun Java System Portal Server の新しい後継製品です。
- Sun OpenSSO Enterprise は事実上、Sun Java System Access Manager と同じ製品です。Sun は Access Manager 用のソースコードを [OpenSSO オープンソースプロジェクト](#) に寄与しました。このプロジェクトからのコードが、Sun OpenSSO Enterprise の作成時に使用されます。

すばやく参照できるように、NetBeans を除く上記すべての製品のリリースノートは、docs.sun.comSM の docs.sun.com/coll/1315.4 に収録されています。

Java ES 6 の新機能

- Java ES 6 とそのスイートには、Java ES 5 Update 1 よりも多くの製品が組み込まれています。
- Java ES 5 Update 1 と比較して、Java ES 6 の互換性および相互運用性テストでは、より多くの製品とより一般的な配備シナリオが扱われ、厳密さが増えています。
- Java ES 6 は Solaris 10 Trusted Extensions 上でテストされ、サポートされています。
- Java ES 6 プラットフォームテストで扱ったプラットフォームは、Java ES 5 Update 1 より高度に仮想化されています。
- Java ES 6 で採用されているインストーラは、単一ホスト用でなく構成製品用のものであるため、より柔軟にエンタープライズレベルの配備をセットアップできます。

詳細については、『[Sun Java Enterprise System 6 の新機能](#)』を参照してください。

Java ES 6 ソフトウェアの入手

Java ES 6 ソフトウェアは、sun.com/software/javaenterprisesystem/getit.jsp で無償ダウンロード版としても、注文可能な CD/DVD メディアのキットとしても提供されています。

Java ES 6 ソフトウェアは、サポートや補償が不要であれば、無償でご利用いただけます。本稼働環境での実行中に必要とされるサポートや補償を取得する場合は、Java ES のサブスクリプション

を購入してください。Java ES のサブスクリプションで提供される利用可能なサポートおよびサービス計画については、sun.com/software/javaenterprisesystem/support.jsp を参照してください。

Java ES 6 のインストール、または Java ES 6 へのアップグレード

Java ES 6 製品のインストールについては、『[Sun Java Enterprise System 6 のインストール](#)』を参照してください。以前のリリースの Java ES から Java ES 6 へのアップグレードについては、『[Sun Java Enterprise System 6 へのアップグレード](#)』を参照してください。

廃止、置換、削除された機能

このリリースで廃止、置換、削除された Java ES のシステム規模の機能を次に示します。このリリースで廃止、置換、削除された製品固有の機能については、該当する製品のリリースノート参照してください。

- HP-UX、Red Hat Enterprise Linux 3、および Microsoft Windows 2000 のシステム全体に渡るサポートはなくなりました。ただし、製品によって、これらのプラットフォームのうちの1つまたは複数が引き続きサポートされる可能性があります。
- J2SE 1.4 のシステム全体に渡るサポートはなくなりました。ただし、製品によっては、J2SE 1.4 が引き続きサポートされる可能性があります。
- システム規模のインストーラは削除されました。
- Java DB は別個の製品として削除されました。GlassFish Enterprise Server に組み込まれました。
- サービスレジストリは削除されました。
- Sun Java System Access Manager の後継となった製品は、OpenSSO Enterprise です。OpenSSO Enterprise は、Access Manager に基づいているため、実質的に新バージョンの Access Manager に相当します。
- Sun Java System Application Server Enterprise Edition の後継となった製品は、GlassFish Enterprise Server です。GlassFish Enterprise Server は、Application Server に基づいているため、実質的に新バージョンの Application Server に相当します。
- Sun Java System Monitoring Console は削除されました。
- Sun Java System Portal Server の後継となった新製品は、GlassFish Web Space Server です。
- Sun Java Studio Enterprise および Sun Java Studio Creator は、NetBeans で置き換えられました。

プラットフォームのサポート

Java ES 6 製品は、少なくとも次のプラットフォームをサポートしています。

- Solaris 10 (SPARC™、x86、および x64 プラットフォーム版)
- Solaris 9 (SPARC および x86 プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux 5 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Red Hat Enterprise Linux 4 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows 2003 Server Standard と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows 2003 Data Center Server 32 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows XP Professional Edition SP2 (x86 プラットフォーム版)
- Microsoft Windows Vista Business Edition (x86 プラットフォーム版)

製品によっては、OpenSolaris、AIX、HP-UX などのプラットフォームをサポートするものや、特定のプラットフォームに関して互換性の問題のあるものがあります。詳細については、該当する製品のリリースノート参照してください。

Java ES 6 製品によっては、Microsoft Windows XP および Vista プラットフォームを開発用にサポートしても、本稼働用にはサポートしない場合があります。

また、Solaris Cluster および Solaris Cluster Geographic Edition が Solaris しかサポートしていないことにも注意してください。

Solaris の要件および問題

Java ES 6 は、Solaris 10 (SPARC、x86、および x64 プラットフォーム版) 上および Solaris 9 (SPARC および x86 プラットフォーム版) 上でテストされ、サポートされています。

Solaris 10 Trusted Extensions。Java ES 6 は、Solaris 10 Trusted Extensions 上でテストされ、サポートされています。

推奨される **Solaris** の更新レベル。Java ES 6 は、Solaris 9 および Solaris 10 のすべてのバージョンでサポートされていますが、製品によっては、特定の最小レベルの更新によって完全な機能を実装することが推奨される場合もあります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。

サポートされている **Solaris** ソフトウェアグループ。Java ES 6 は、次の Solaris ソフトウェアグループを使用してインストールされた Solaris システム上でテストされサポートされています。

- SUNWCxall – Solaris ソフトウェアグループ全体と OEM サポート
- SUNWCall – Solaris ソフトウェアグループ全体

製品によっては、SUNWCprog (開発者 Solaris ソフトウェアグループ) や SUNWCuser (エンドユーザー Solaris ソフトウェアグループ) など、追加のグループをサポートする場合があります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。

Solaris 10 での最小インストール。Java ES 6 製品によっては、最小の Solaris 10 システム上で稼働するものもあります。この最小システムは、SUNWCreq (コアシステム Solaris ソフトウェアグループ) を使用してインストールされる場合と、SUNWCreq を使用してインストールされたあと別途のパッケージが追加される場合があります。最小インストールに必要なとされる一連のパッケージは、製品ごとに異なります。したがって、該当する製品のリリースノートを参照して、Solaris 10 上での製品の最小インストール要件を確認してください。

Linux の要件および問題

Java ES 6 は、Red Hat Enterprise Linux 5 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版) および Red Hat Enterprise Linux 4 AS および ES (x86 および x64 プラットフォーム版) でテストされ、サポートされています。

Windows の要件および問題

Java ES 6 は、次の Microsoft Windows プラットフォームでテストされ、サポートされています。

- Windows 2003 Server Standard Edition と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows 2003 Server Enterprise Edition と Enterprise Editions 32 および 64 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows 2003 Data Center Server 32 ビットバージョン SP2 (x86 および x64 プラットフォーム版)
- Windows XP Professional Edition SP2 (x86 プラットフォーム版)
- Windows Vista Business Edition (x86 プラットフォーム版)

Java ES 6 製品は、機能縮退を招かない最新版の Service Pack もサポートしています。

Java ES 6 製品によっては、Windows XP および Vista プラットフォームを開発用にサポートしていても、業務ユーザー用にはサポートしない場合があります。

システムの仮想化のサポート

システムの仮想化は、複数のオペレーティングシステム (OS) インスタンスを共用ハードウェア上で個別に実行できるようにするテクノロジーです。機能的にいうと、仮想化された環境でホストされる OS に配備されたソフトウェアは、通常はベースとなるプラットフォームが仮想化されていることを認識しません。Sun では、精選されたシステムの仮想化と OS の組み合わせについて、その製品の多くをテストしています。これは、適切な規模と構成の仮想化環境でも、仮想化されていないシステム上の場合と同様に、製品が機能することを効果的に確認するためのテストです。仮想化された環境における製品のサポートの一般情報については、『[System Virtualization Support in Sun Java System Products](#)』を参照してください。この一般情報に対する製品固有の例外や拡張については、製品のリリースノートを参照してください。

Web ブラウザのサポート

Java ES 6 製品に装備されている Web ベースのエンドユーザーインターフェイスおよび管理インターフェイスでサポートされている Web ブラウザとしては、少なくとも次のものが挙げられます。

- Mozilla Firefox 1.5 および 2.0 (Solaris、Red Hat Linux、Microsoft Windows、および Mac OS X 版)
- Microsoft Internet Explorer 6 および 7 (Microsoft Windows 版)
- Apple Safari 2.0 および 3.0 (Mac OS X 版)

また、Java ES 6 製品によっては、ほかの Web ブラウザ (たとえば、Opera) をサポートするものもあります。それらの製品に対してサポートされている Web ブラウザの完全なリストについては、使用している製品のリリースノートを参照してください。

Java Platform Standard Edition (Java SE) のサポート

Java ES 6 製品でサポートされている Java SE のバージョンとしては、少なくとも次のものが挙げられます。

- Java SE 5.0 Update 14 (1.5.0_14)
- Java SE 6.0 Update 3 (1.6.0_3)

Java ES 6 製品は、機能縮退を招かない最新版のアップデートもサポートしています。

製品によっては、ほかのバージョンの Java SE (たとえば、J2SE 1.4.2) をサポートするものや、特定のバージョンの Java SE に関して互換性の問題のあるものがあります。詳細については、該当する製品のリリースノートを参照してください。製品のリリースノート一覧については、「[2 ページの「Java ES 6 Base 製品」](#)」を参照してください。

既知の問題

次の節では、Java ES 6 に関して次の種類の問題を説明します。

- Java ES 6 製品をインストールするときの特殊な状況に関連した問題
- 以前のバージョンの Java ES から Java ES 6 製品にアップグレードするときの特殊な状況に関連した問題
- Java ES 6 の複数製品の相互運用性に関連した問題
- Java ES 6 製品に関する高可視性の問題

すばやく参照できるように、次の節で説明する問題のリストを示します。

- [7 ページの「OpenSolaris: Java ES 製品を OpenSolaris ゾーンに配備する際に、追加の OpenSolaris パッケージが必要になる」](#)
- [7 ページの「OpenSolaris 2008.11 と VMWare ESX/ESXi 3.5: いくつかの Java ES 製品に、システム時刻の問題に起因する障害が発生する」](#)

- 7 ページの「Web Server: 逆プロキシ経由で配信された一部のページが正しく描画されない (6762401)」
- 8 ページの「OpenSSO Enterprise: ユーザーパスワードに % (パーセント) を含めた場合、認証に失敗する (4122)」
- 8 ページの「GlassFish Enterprise Server と Web Space Server: GlassFish Enterprise Server 管理者ユーザーが "admin" 以外の場合は、Web Space Server をインストールできない (6812932)」
- 8 ページの「GlassFish Enterprise Server と Web Space Server: GlassFish Enterprise Server で Security Manager が有効になっている場合、Web Space Server のインストールに特殊な構成が必要になる (6771720, 6813015)」
- 9 ページの「Web Space Server と OpenSSO Enterprise: OpenSSO Enterprise を使用する設定になっている Web Space Server にログインしようとしても失敗する (6760660)」
- 9 ページの「OpenSSO Enterprise と Portal Server: OpenSSO Enterprise へのアップグレード後、amadmin としてログインできなくなった (4378)」
- 10 ページの「OpenSSO Enterprise と Portal Server: OpenSSO Enterprise へのアップグレード後、同じノード上の Portal Server インスタンスが機能しなくなった (4756, 4809)」
- 10 ページの「GlassFish Enterprise Server と Identity Manager: GlassFish Enterprise Server へのアップグレード中に、Identity Manager idm.war ファイルを再配備できない (6819380)」
- 10 ページの「GlassFish Enterprise Server と Portal Server: パッケージベースの Application Server 8.2 からアップグレードしたあと、admin ログインセキュリティーが機能しなくなった (6818829)」
- 10 ページの「Directory Server と Identity Manager: Identity Server でユーザーアカウント ID を変更した場合、LDAP グループメンバーシップがメンテナンスされない (20404)」
- 11 ページの「Access Manager と Java CAPS: HTTP BC が https 経由で Access Manager に認証できない (6763628)」

これらの多くの問題に関する詳細および更新は、sunsolve.sun.com、bugs.sun.com、または java.net で検索できます。

OpenSolaris: Java ES 製品を OpenSolaris ゾーンに配備する際に、追加の OpenSolaris パッケージが必要になる

特定の OpenSolaris パッケージをさらにインストールしないかぎり、OpenSolaris をサポートしている Java ES 6 製品の多くは、OpenSolaris ゾーン内で正しくインストールまたは実行されません。

解決策: OpenSolaris ゾーン内での正常動作に必要とされる一連の追加パッケージ (存在する場合は製品ごとに異なります)。したがって、該当する製品のリリースノートを参照して、OpenSolaris ゾーン内でのインストール方法を確認してください。

OpenSolaris 2008.11 と VMWare ESX/ESXi 3.5: いくつかの Java ES 製品に、システム時刻の問題に起因する障害が発生する

OpenSolaris の問題 (4788) に取り上げられているように、VMWare ESX および ESXi 3.5 内で OpenSolaris が仮想化されているときは、システム時刻が不正になります。この問題が原因で、この仮想化環境でインストールまたは稼働中の一部の Java ES 製品に障害が発生し、時刻に関連したさまざまなエラーが通知されています。

解決策: VMWare ESX または ESXi 3.5.0 Update 4 にアップグレードしてください。今回のバージョンの VMWare ESX および ESXi では、システム時刻の問題が解決されています。

Web Server: 逆プロキシ経由で配信された一部のページが正しく描画されない (6762401)

条件によっては、HTTP 応答が Web サーバーのリバースプロキシ機能を介して正しく転送されないため、結果として Web ブラウザ内の Web ページが正しく描画されません。

解決策: なし。

OpenSSO Enterprise: ユーザーパスワードに %(パーセント) を含めた場合、認証に失敗する (4122)

ユーザーパスワードに、"%52" のように %(パーセント) 記号とそれに続く 2 桁の数字が含まれている場合、該当のユーザーは OpenSSO Enterprise に認証されません。この場合、% とそれに続く 2 桁の数字は ASCII コードとして解釈されるためです。たとえば、"%52" は R (大文字の R) を表す ASCII コードです。

解決策: ユーザーのパスワードをリセットしてください。

GlassFish Enterprise Server と Web Space Server: GlassFish Enterprise Server 管理者ユーザーが "admin" 以外の場合は、Web Space Server をインストールできない (6812932)

Web Space Server の配備先となる GlassFish Enterprise Server ドメインまたはインスタンスが管理ユーザーのデフォルトユーザー名 "admin" を使用しない場合、Web Space Server をインストールしようとすると失敗します。

解決策: Web Space Server をインストールする前に、webpace/application サブディレクトリにある install.xml ファイルを編集して、次のインスタンスを

```
<arg value="admin"/>
```

次の行に置き換えます。

```
<arg value="username"/>
```

username は、Web Space Server の配備先となる GlassFish Enterprise Server ドメインまたはインスタンスの管理ユーザーのユーザー名です。

GlassFish Enterprise Server と Web Space Server: GlassFish Enterprise Server で Security Manager が有効になっている場合、Web Space Server のインストールに特殊な構成が必要になる (6771720, 6813015)

Web Space Server の配備先となる GlassFish Enterprise Server ドメインまたはインスタンスに対して Security Manager 機能が有効になっている場合、Web Space Server インストール後に動作しなくなります。GlassFish Enterprise Server エンタープライズプロファイルを使用しているときは、この機能が自動的に有効化されることに注意してください。

解決策: 次の手順に従って、Web Space Server をインストールしてください。

1. Web Space Server の配備先となる GlassFish Enterprise Server ドメインの `server.policy` ファイルを変更します。このファイルは、`domains/domain-name/config` サブディレクトリにあります。

次の行の前に

```
// Basic set of required permissions granted to all remaining code  
grant {
```

次の行を追加します。

```
// permissions to support Web Space Server  
grant codeBase "file:${com.sun.aas.instanceRoot}/lib/-" {  
    permission java.security.AllPermission;  
};
```

```
grant codeBase "file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/webpace/-" {  
    permission java.security.AllPermission;  
};
```

```
grant codeBase "file:${com.sun.aas.instanceRoot}/applications/j2ee-modules/saw-web/-" {
    permission java.security.AllPermission;
};
```

また、基本許可ブロックで

```
// Basic set of required permissions granted to all remaining code
grant {
    ...
};
```

次の行をブロック終了の直前に追加します。

```
permission java.lang.reflect.ReflectPermission "suppressAccessChecks";
```

2. Web Space Server の配備先となる GlassFish Enterprise Server ドメインを再起動します。
3. Web Space Server 配布パッケージ (webspaces-for-gfv2) の portal-ext.properties ファイルを変更します。このファイルは、webspaces/application/distribution/deploy/webspaces/WEB-INF/classes/ サブディレクトリにあります。ファイルの最後に、次の行を追加します。

```
auto.deploy.glassfish-tomcat.jee.dm.id=deployer:Sun:AppServer::localhost:4848:https
```

4. webspaces/application サブディレクトリに移動し、次のコマンドを入力して、Web Space Server をインストールします。

```
ant -f install.xml
```

Web Space Server と OpenSSO Enterprise: OpenSSO Enterprise を使用する設定になっている Web Space Server にログインしようとしても失敗する (6760660)

OpenSSO Enterprise を使用して Web Space Server をユーザー管理用に構成したあとで、Web Space Server へのログインを試みると失敗します。

解決策: 次の手順を実行します。

1. OpenSSO Enterprise 管理コンソールにログインします。
2. 「設定」をクリックします。
3. 「サーバーおよびサイト」をクリックします。
4. Web Space Server でユーザー管理上の問い合わせ用に設定されているサーバーをクリックします。
5. 「セキュリティ」をクリックします。
6. 「Cookie」セクションで、「Cookie 値のエンコード」を有効にし、「保存」をクリックします。
7. OpenSSO Enterprise の配備先となる Web コンテナを再起動します。

OpenSSO Enterprise と Portal Server: OpenSSO Enterprise へのアップグレード後、amadmin としてログインできなくなった (4378)

Access Manager 7.x から OpenSSO Enterprise 8.0 へのアップグレード後に、Portal Server コンソール (psconsole) にログインしようとしたら、psadmin コマンドを amadmin ユーザーとして実行しようすると失敗します。

この問題は、OpenSSO Enterprise および Portal Server が異なるノード上に配備されているマルチノードアーキテクチャーにおいてよく見られます。

解決策: なし。

OpenSSO Enterprise と Portal Server: OpenSSO Enterprise へのアップグレード後、同じノード上の Portal Server インスタンスが機能しなくなった (4756、4809)

あるノード上で Access Manager を OpenSSO Enterprise 8.0 にアップグレードしたあとは、同じノード上の Portal Server インストールプログラムが機能しなくなります。この障害が発生する原因は、OpenSSO Enterprise と Access Manager の AM SDK コンポーネントが同じ Web コンテナ内に共存できないことと、Portal Server が AM SDK コンポーネントに依存していることです。

解決策: なし。

GlassFish Enterprise Server と Identity Manager: GlassFish Enterprise Server へのアップグレード中に、Identity Manager idm.war ファイルを再配備できない (6819380)

Application Server 8.2 からアップグレードする GlassFish Enterprise Server に付属のアップグレードユーティリティを使用した場合、アップグレードログに idm.war ファイルが配備されないという記録が残ります。

解決策: アップグレードユーティリティで修正し配備を試行したファイルでなく、元の idm.war ファイルを配備してください。Identity Manager をデフォルト設定でインストールした場合、元の war ファイルは /opt/idm.war となります。

GlassFish Enterprise Server と Portal Server: パッケージベースの Application Server 8.2 からアップグレードしたあと、admin ログインセキュリティが機能しなくなった (6818829)

Portal Server が配備された Application Server 8.2 のパッケージベースのインストールプログラムからアップグレードしたあとは、admin セキュリティが機能しなくなります。代わりに、admin コンソールが admin ユーザー名およびパスワードの入力要求なしに使用可能になります。

解決策: GlassFish Enterprise Server server.policy ファイルで、次の行を

```
permission java.security.AllPermission "MonitoringAuth.*";
permission java.security.AllPermission "MonitoringPolicy.*";
```

次のように変更します。

```
permission javax.management.MBeanServerPermission "*";
permission javax.management.MBeanPermission "*", "*";
permission javax.management.MBeanTrustPermission "*";
permission java.io.FilePermission "//var/opt/SUNWmfwk/logs/*", "delete,write";
```

最後の行のパスが2つのスラッシュ (//) で始まっていることに注意してください。最初のスラッシュは、SUNWmfwk-rt のインストールディレクトリを示します。デフォルトのインストールディレクトリ (Solaris の場合 /opt、Linux の場合 /opt/sun) は単一スラッシュで示されます。

Directory Server と Identity Manager: Identity Server でユーザーアカウント ID を変更した場合、LDAP グループメンバーシップがメンテナンスされない (20404)

Identity Manager LDAP リソースアダプタを介して Directory Server 6.3.1 LDAP ストアが Identity Manager 8.0 で管理可能なときに、Identity Manager でユーザーアカウント ID を変更した場合、そのユーザーの LDAP グループメンバーシップがメンテナンスされません。このことは、Identity Manager の accountId 属性が LDAP cn 属性と uid 属性の両方にマップされている場合でも当てはまります。

解決策: なし。

Access Manager と Java CAPS: HTTP BC が https 経由で Access Manager に認証できない (6763628)

Access Manager を使用して Java CAPS 認証を行っている場合は、Java CAPS HTTP Binding Component (HTTP BC) を https 経由で Access Manager に認証できません。

解決策: Access Manager から証明書を取得し、HTTP BC の配備先となる GlassFish インスタンスの証明書トラストストアの cacerts.jks に追加します。この操作の実行手順の例を次に示します。

1. Access Manager から証明書を取得します。

```
openssl s_client -connect accessmanager-host:port
```

2. エンコードされた証明書をテキストファイルに保存します。

openssl コマンドに対する応答で、次の行で始まっていて

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
```

次の行で終わっているセグメントを見つけます。

```
-----END CERTIFICATE-----
```

このセグメント (BEGIN 行と END 行を含む) を選択し、cert.crt という名前のファイルにコピーします。そのようなセグメント全体は、たとえば次のようになります。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
```

```
MIICpDCCAg2gAwIBAgIFAItb54QwDQYJKoZIhvcNAQEEBQAwwZUxCzAJBgNVBAYT
ALVTMRMwEQYDVQQIEwpyZm9ybmhMRQwEgYDVQQHEwtTYW50YSBDbGFyYTEZ
MBCGA1UEChMQU3VlIE1pY3Jvc3lzdGVtczErMCKGA1UECxMiU3VlIEphdmEgU3lzdGVt
dGVtIEFwcGxpY2F0aW9uIFNlcnZlcjETMBEGA1UEAxMKanNjLWxkb20tNzAeFw0w
ODExMDQxNjA1NDBaFw0xODExMDQxNjA1NDBaMIGVMQswCQYDVQQGEwJVUzETMBEG
A1UECBMkQ2FsaWZvc5pYTEUMBIGA1UEBxMLU2FudGEgQ2xhcmExGTAXBgNVBAoT
EFN1biBNawNyb3N5c3RlbXMxKzApBgNVBAsTIlN1biBKlXZlZlIFN5c3RlbSBbcHBs
aWNhdGlvbiBTZXJ2ZXIxEzARBgNVBAMTCmpzYy1sZG9tLTcwZ8wDQYJKoZIhvcN
AQEBBQADgY0AMIGJAoGBAL5I2Kll7Nt1kfZkCfPrykTrPSGrVccYEzE5IPEmf6S
ytBwRwD/hqBtSr5DFpobEIG2NSGHF253fubE9nCRkduX11XPfT1Pyh8eZ0RLSi9
dR1ZT89gln0EuJFw+6LqyRWEyon8ncVyp4Ewrk75jvnI8LZeP5j3zIGeAxKEymn
AgMBAAEwDQYJKoZIhvcNAQEEBQADgYEACpkm0aPVkMfg0KvBQNFs+yE6qG6LKV4X
WVyEwaASVr7QjxHhdNeEiLLob3xZmBXMHDvzLYZMw1RI7MSwZBOLmPT07RioIP0T
GIIeqVDv6lAjNQtYmWpLH05ANb69L9dLDwYOsA27YnqdhGwNu4czEI6Qo1oQois
eNF9l0yB+Ks=
```

```
-----END CERTIFICATE-----
```

3. 証明書を GlassFish cacerts.jks トラストストアにインポートします。

```
keytool -import -keystore /opt/JavaCAPS6/appserver/domains/domain1/config/cacerts.jks -file cert.crt
```

4. GlassFish インスタンスを再起動します。

再配布可能ファイル

Sun Java Enterprise System 6 製品によっては、再配布可能なファイルが付属している場合があります。これらのファイルについては、使用している製品のリリースノートを参照してください。

Berkeley Database の使用に関する権利

Sun Java Enterprise System 6 製品によっては、Oracle Corporation 製品である Berkeley Database のオブジェクトまたはソースコード、あるいはその両方が付属している場合があります。Java Enterprise System またはその認定された派生製品とは別に Berkeley Database ソフトウェアを使用する場合は、追加のライセンス条件に従う必要があります。

障害を持つユーザー向けのアクセシビリティ機能

Sun は、高度なアクセシビリティ機能および支援技術を含む製品の提供に取り組んでいます。詳細については、<http://sun.com/accessibility> を参照してください。

Java ES 6 製品のアクセシビリティ機能については、第 508 条の製品評価書を参照してください。この製品評価書はご要望に応じて Sun から提供されます。

Java ES 6 の Sun GlassFish Enterprise Server および Sun GlassFish Web Space Server は、第 508 条に完全には適合していません。Sun は今後の製品バージョンまたはアップデートにおいて、これらの製品を完全に適合させるための手段を講じます。

Java ES 6 のドキュメント

Java ES 6 および Java ES 6 の製品に関するドキュメントは、docs.sun.com の次のコレクションで参照できます。

- リリースノート: docs.sun.com/coll/1315.4
- システムレベルのインストール、アップグレード、および相互運用性に関するドキュメント: docs.sun.com/coll/1286.4
- 各製品マニュアルのコレクション: docs.sun.com/prod/entsys.6

また、その他の種類のドキュメントは次のサイトで探すことができます。

- BigAdmin 上の Java ES の情報ハブ: sun.com/bigadmin/hubs/javaes
- Java ES の相互運用性に関するサイト: wikis.sun.com/display/Interoperability
- Java ES のフォーラム: forums.sun.com/forum.jspa?forumID=872

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun の Web サイトには、次に示す関連情報が示されています。

- ドキュメント (<http://www.sun.com/documentation/>)
- サポート (<http://www.sun.com/support/>)
- トレーニング (<http://www.sun.com/training/>)

Sun 製品資料の検索

Sun 製品マニュアルは docs.sun.com Web サイトで検索できるだけでなく、検索エンジンの検索フィールドに次の構文を入力することによっても検索できます。

```
search-term site:docs.sun.com
```

たとえば、「ブローカ」を検索する場合は、次のように入力します。

```
broker site:docs.sun.com
```

検索に java.sun.com、www.sun.com、developers.sun.com などほかの Sun Web サイトも含めるには、「docs.sun.com」の代わりに「sun.com」を検索フィールドに入力します。

第三者の Web サイト参照

このマニュアル内で参照している第三者の URL は、追加の関連情報を提供します。

注-このドキュメント内で引用する第三者の Web サイトの可用性について Sun は責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを経由して利用可能な、コンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した、あるいは発生したと主張されるいかなる損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

このマニュアルに関するコメント

弊社では、マニュアルの改善に努めており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。ご意見をお寄せいただくには、<http://docs.sun.com> にアクセスして、「Feedback」をクリックしてください。

改訂履歴

バージョン	日付	変更点の説明
10	2009 年 4 月	最終リリースバージョン

Copyright 2009 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun Microsystems, Inc. は、この文書に記載された製品に含まれるテクノロジーに関する知的財産権を保持しています。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPEN LOOK および SunTM Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となることがあります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト（輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含むが、それらに限定されない）に指定された団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示的保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとしします。

820-7994-10

Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A.

